

HAT神戸新設小学校・特別支援学校新築工事

畠中局長を先頭に

完成予想図



施工=大豊・神鋼興産JV



パトロールする畠中局長(中央)、太田所長(右)、左は川嶋支部長



作業員に安全を呼びかける畠中局長

兵庫労働局 年末安全パトロール

と全作業員に対し労働災害防止を要請した。畠中局長は、県内の建設業での死亡災害について、依然として墜落・転落等の工夫が行われている。

災害が多い」と指摘、このため、フルハーネス型安着の使用徹底をはじめ、「許容できないリスクのない職場づくり」を目指し、同局が推進する

パトロールでは、太田安着の使用徹底をはじめ、「許容できないリスクのない職場づくり」を目指し、同局が推進する「兵庫リスク低減M-S運動」への取組みを呼びかけた。

リスクの低減について、畠中局長は、リスク低減措置後の残留リスクの管理を組織的、継続的に

P D C Aサイクルで管理し、「現場一体となり、許容できないリスクがない工事現場づくりを目指してほしい」と訴え、今後は高所作業も増えてく

りことから、「墜落・転落防止に徹底的に取り組むことから、「墜落・転落事故が発生しない」とし、同現場の取組

工事現場づくりを目指す」とから、「慌ただしくなりがちだが、慌てることなく、場内でもしっかりと対策が講じられていく」と語った。

建物は、RC造一部階地上六階建て、建築面積五、七〇四・七三平方メートル。延床面積一萬二、七五、延床面積一萬二、七五と今後の活動に期待を寄せた。

工事は、平成三十一年四月に着工し、現在は二

校舎は、北側に特別支援学校、南側を小学校としている。Cの工区に分け、一体的に工事が行われている。

同現場では、リスクアセスメントの実践に加え、日常の朝礼・ミーティングで作業員の安全意識の高揚を図ることで、K-Y運動や声掛け運動等を実践している。

また、作業ヤードを開いて躯体工事が行われている。各クローラークレーンの旋回方向とする等の工夫が行なわれていて、作業内を巡回。畠中局長は、各作業の説明を受けながら、それぞれの作業を

兵庫労働局では、畠中啓良局長による安全パトロールを十二月十九日、神戸市の「HAT神戸新設小学校・特別支援学校新築工事」作業所(神戸市灘区摩耶海岸通二丁目)で実施した。年末年始にかけて建設業での労働災害が増加傾向にある特別支援学校を同一敷地内に一体的に整備することから、労働災害防止対策の強化を呼びかけるもので、神戸市が発注を行なったもの。パトロールには、労働局はじめ神戸市、建設業災害

ロールを十二月十九日、川嶋美支部長が参加した。この事業は、神戸市灘区南部と中央区東部のH A T神戸地区での児童数が増加し、今後も増加が見込まれることから、同様に児童数が増加傾向にある特別支援学校を同一敷地内に一体的に整備するもので、神戸市が発注し、設計は神戸すまいまつくり公社、施工は、パトロールに先立ち、

大豊・神鋼興産特定建設畠中局長がJVスタッフ一同に、KY運動や声掛け運動、玉掛け作業での3・中工期は令和三年一月三・三十一連動等を実践十五日。